



### 地元力財団

## あなたの「ほっとけない」が見つかる これからの社会貢献 100

地元をよくするために、私たちは何をすべきなのでしょう。地元をよくするために何かしたいけど何をすれば良いのか分からないというあなたに向けて、あなたの地元、ここ和歌山の地域課題をデータを用いて見える化していきます。毎回異なるテーマ（分野）を取り上げ、地元の課題を端的に表すデータをご紹介します。

### 何が課題？数字でみる和歌山県

### Theme14 和歌山県民と「がん」

#### 和歌山県のがんによる死亡率

75歳未満・人口10万人あたり死亡率と全国順位

2013年	81.8	全国11位
2012年	87.7	全国4位
2011年	94.0	全国2位
2010年	91.8	全国4位
2009年	88.8	全国9位
2008年	90.3	全国9位
2007年	97.4	全国3位
2006年	98.9	全国2位
2005年	98.5	全国5位
2004年	103.9	全国3位

(出典：和歌山県健康推進課)

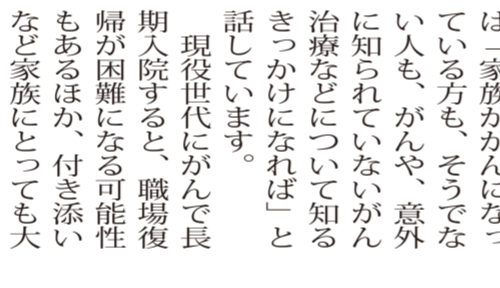
民間でがんを考え、行政だけでは民間ベースでがんについて考え、患者や家族の方を支援する仕組みが和歌山県でも広がっています。なかでも明日正午からあさつて13時まで、和歌山城砂の丸広場で「J・レー・フォー・ライフ・ジャパン（RFJ）2015わかやま」が開催されます。がん患者の方だけではなく、患者の家族、がん元気をもらえた、という

和歌山県民とがん 現在、日本人の約半数が生産性一度はがんにかかるという統計が出ています。なかでも和歌山県では長年、死亡原因の第1位ががんとなっています。しかし、和歌山県健康推進課が発表している和歌山県民のがんに関するデータをみると、年ごとに上下はみられませんが、全般的に死亡率は改善される傾向にあるようです。がん検診の呼びかけやホームページでの情報発信など、様々な取り組みが功を奏して始めているものとみられます。



今年度の実行委員会は、患者・元患者・家族・遺族・医療関係者・県内の大学・看護専門学校・一般ボランティアなど、約50人で構成されており、去年のイベントに参加した方が新たに実行委員会に加わるなどその輪は着実に広がっています。昨年の初開催の会場では、このイベントで

家族を亡くされた遺族をはじめ、様々な方が参加されます。RFJわかやま実行委員会事務局の富士希さんに話をうかがいました。全国約50カ所で開催されているRFJ。がん患者は24時間開いていて、その勇気をたたえてアメリカ人外科医が走り始めたのが起源とされています。これまで近畿では、滋賀県と和歌山県が空白域でしたが、昨年初めて両県で初開催、近畿2府4県での開催が実現しました。会場にはランとウォークの2つのレーンがあり、参加者は交替しながら24時間歩き続けます。



当日は参加者同士が交流するイベント、ステージイベント、野菜の販売やマッサージ、チャリティカフェなど様々なブース、がんに関する啓発コーナー、医療や検診・ケアに関する相談、がん患者サロンのブースなどが設けられます。さらに、患者・家族・遺族・医療従事者などによる講演、23日夜には約500本の竹燈籠と1000人の応援メッセージの上映、24日は朝市など、様々なイベントが行われます。

県内では大きな病院を中心に「がん患者サロン」が開設されており、患者や家族のみならず、患者が集まって情報交換などをおこなっていますが、そのような場に顔を出せない方も少なくなく、昨年この会場でも、同じ立場の方や家族の方と意見交換ができてよかった、という方も多かったそうです。

### みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- ボードゲームであそぼ  
外国のボードゲームで遊んでみませんか。  
日時 5月27日(水) 10:00～  
場所 和歌山市 NPO・ボランティアサロン (フォルテワジマ6階)  
講師 西田亜津子さん (あそびであそび代表)  
対象 3歳～6歳児の保護者(子どもは不可)  
参加費 無料(申込み必要)  
問い合わせ・申込み おもちゃのパオパブ (073-422-0123)
- 古民家で昔ばなしを聞く会  
和歌山昔ばなしを語る会のみなさんが和歌山の言葉で語る和歌山に伝わる昔話を楽しみませんか。  
日時 5月30日(土) 14:00～14:30  
場所 旧中筋家住宅 (和歌山市柳宮)  
参加費 無料(大人は旧中筋家の観覧料が別途必要)  
問い合わせ 旧中筋家住宅 (073-465-3040)
- ホースセラピー体験  
馬は言葉はわからないけれど、気持ちが伝わる動物なので、気持ちを察する力などのコミュニケーション力がつくといわれています。あなたも体験してみませんか。  
日程 6月2日(火) 10:00～12:00  
集合場所 若者サポートステーションわかやま  
参加費 無料(申込み必要)  
問い合わせ・申込み 若者サポートステーションわかやま (073-427-3500)  
備考 締切は5月28日。乗馬体験は5名限定。馬とのふれあい、職場体験・見学参加もOK。タオル、飲み物など持参。
- 親子で楽しもう初めてのドラムサークル  
子どもから高齢者まで、病気や障がいがあっても、音楽の知識や経験がなくても、国籍が違っても楽しめます。  
日時 5月30日(土) 11:00～12:30  
場所 トラットリア・エジソン (和歌山市柳宮) 2階スペース  
参加費 小学生まで500円、中学生以上1000円(たいこ・楽器使用料込み)、事前申込み必要  
問い合わせ・申込み かんちゃんドラムサークル (happines.s.dc.kanchan@gmail.com・大中さん)

このほかの情報もたくさん掲載！「わかやまイベントボード」URL  
PC版 http://eventboard.shiminjuku.jp/ 携帯電話版 http://eventboard.shiminjuku.jp/m/

### NPO 紙上講座 (9) NPO を取り巻く環境②

地域の活性化を図るとともに、すべての人々がその能力を発揮できるよう下支えを進める「共助社会」づくりをめざすために、内閣府では「共助社会づくり懇談会(共助懇)」を設置し、共助社会づくりに必要な政策課題の分析と支援策の検討を進めてきました。

や生活状況に応じた活動参画を選択することを求めています。

この3月に報告書が公開されましたが、このなかでは(1)地域社会において重要な役割を担ってきた自治会、消防団、商店街等に加え、NPO法人をはじめとした公益的な活動を行っている法人等も「共助社会」の担い手になること、(2)(1)に加えて、民間企業、ソーシャルビジネス事業者、金融機関、教育機関、行政、ひいては地域住民一人一人も共助社会づくりの当事者になるという意識の共有が必要である、と位置づけられています。

地域住民のなかでは、特に、女性や高齢者、若年層の積極的な地域づくりへの参画が謳われています。こうした層が積極的に地域づくりに参画し、活躍の機会を得ることで、これまでなかった新たな人々のつながりが生まれ、地域コミュニティの形成が図られることが期待できる、としています。

人口減少や少子高齢化が急速に進み、さらに地域のつながりの希薄化などの影響を受け、自治会や消防団、商店街等の「地縁型」組織が危機に瀕しているという話は枚挙にいとまがありません。

これらのことから共助懇では、共助社会を「個人の多様な価値観や意思が尊重されながら、新たな『つながり』が構築され、全員で作りに上げていく社会」と定義。日本経済の再生や「地方創生」も視野に、助け合い・支え合いを後押しする制度や仕組みの構築に取り組む必要があると結んでいます。

しかし、NPO法人や公益法人などの「テーマ型」組織だけではなく、企業や金融機関、教育機関なども地域課題解決に向けた参加をみせるようになっていきます。共助懇では、これら地域に関わるあらゆる組織が互いに連携し住民を支えつつ、住民自身も共助社会づくりの担い手の一人として、自身の価値観

共助社会を実現させるためには、法人格の有無などは問わずとも、「民間の非営利組織」としてのNPOは欠かすことができません。NPOが「媒介役」を務めながら、地域づくりに関与するあらゆる主体との連携・連帯が求められるようになっていくでしょう。

共助懇の報告書はこちらでご覧いただけます。  
https://www.npo-homepage.go.jp/kaigi/kyoujo-shakai/kyoujo-shakaitoha